

○文化財の概要

おわりせいぶ こども 尾張西部の子供ザイレン

1 文化財の所在地

愛知県愛西市・稲沢市・津島市ほか

2 保護団体

特定せず

3 公開期日

7月～8月

4 文化財の概要

(1) 文化財の特色

本件は、子供ザイレンと呼ばれる、水神信仰や夏の疫病除けの天王信仰を基調とした子供組の行事である。少子化によって子供の行事が全国的に衰退していく中で、愛知県の尾張地方では、子供ザイレンが今日でも広範囲に伝承されている。子供集団における年齢階梯制※的な役割や行事の形態には、子供組による民俗行事の典型的な性格がみられ、また、津島神社の天王祭や信仰の影響が色濃く、尾張地方ならではの子供組の行事として地域的特色も顕著である。

※「年齢階梯制」

社会の成員を年齢によっていくつかの階級に分け、それぞれに特定の役割・機能を分担させ、全体としてその集団の統合を図る社会制度

(2) 文化財の説明

本件は、愛知県の尾張地方の中でも、西部の木曾川下流域の地域を中心にみられ、水難防止や災厄除けを祈願して、7月から8月にかけて行なわれる。

ザイレンとは、祭礼の語の転訛とされ、子供ザイレンと呼ぶ地域が多いが、行事に際して作られる祠ほこらやその材料となる葭よしにちなんで、オミヨシサンやオミコシサンなどと呼んでいる地域もある。

子供ザイレンは、小学生から中学生までの男子が行事の主体であり、近年は女子も参加するようになってきているが、子供組や子供連中などと呼ばれる5歳から15歳までの男子の年齢集団の行事として伝えられてきた。オヤブンやオヤカタと呼ばれる年長の子供が指揮をとり、宿となる公民館などに数日前から集まって行事の準備をしたり、会食をしたりする。

行事の当日は、葭わらや藁、野菜などで作った天王様の祠や大蛇などを川の近くや神社の境内などに祀り、夜になると提灯まつトボシと称して、大きな柱を立てて提灯を山型に飾り、その下で花火などをして遊ぶ。



こもい (愛西市)



うちぎや (愛西市)



とうじょう
東城 (稲沢市)



しもしんでん
下新田 (津島市)



しもおおまき
下大牧 (愛西市)